

プロ野球ドラフト会議

西館 昂汰 (経済4)

最高評価に感謝「応援される選手に」

2年連続でドラフト1誕生

10月26日に行われたプロ野球ドラフト会議で、野球部の西館昂汰(経済4・筑陽学園高)が、東京ヤクルトスワローズからドラフト1位指名を受けた。

西館は188センチの長身から、最速152キロの直球を投げる右の本格派。西大からのドラフトは菊地史玖さん(今5経営・千葉ロッテマリーンズ)に次いで2年連続。

2回目の入札でヤクルトから指名を受けると驚いた表情を見せたが、すぐに笑顔を浮かべ、同席した齋藤正直監督や佐々木重人部長と握手を交わした。

指名後の記者会見では「指名後の記者会見では第一声で「はしゃぎたいくらいうれしい」と喜びを語った西館。「昨日の夜はあまり眠れなくて、すごく不安だった。うれしいというよりホッとしたという気持ち」と話した。自身について「持味は投げっぷり。楽天の松井裕樹選手のように、投げっぷりのいいピッチャーになりたい。東都2部でやってきたので、実績があるわけではない。1位で指名していただき、感謝の気持ちでいっぱい」と最高評価を受けたことへの喜びを口にした。

「応援されると頑張れるので、ファンに応援される人を引き付けられるような選手になりたい」とプロでの目標を掲げた。

「持味は投げっぷり」。躍動感あるフォームから力強いボールを投げる本格派
撮影＝高橋尚之(経営4)



佐々木部長(左)、齋藤監督(右)と喜びを分かち合う西館 撮影＝相川直輝(文4)



記者の質問に笑顔で答えた 撮影＝相川



チームメートによる歓喜の胴上げ 撮影＝高橋

「ソフトバンクの柳田悠岐選手も好きなので、対戦して三振を取りたい」と夢を語った。

また、対戦したい選手を問われると「スワローズの村上宗隆選手と対戦したかったんですけど……」と笑いを誘った後、「ソフトバンクの柳田悠岐選手も好きなので、対戦して三振を取りたい」と夢を語った。

「応援されると頑張れるので、ファンに応援される人を引き付けられるような選手になりたい」とプロでの目標を掲げた。



「ソフトバンクの柳田悠岐選手も好きなので、対戦して三振を取りたい」と夢を語った。

悲願の学生日本一

女子S 出澤 雪辱果たす

全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部10月26〜28日、石川県・いしかわ総合スポーツセンターで女子シングルス決勝で出澤杏佳(文3・大成女子高)が筑波大の青井さくら選手に4-2で勝利し、見事に優勝。初の学生日本一に輝いた。

「この1年間、準備を徹底することを心掛けた。やれることは全てやる。『自分のできること全てやっても、負けるのであれば仕方ない』と考えるようになった」と自身の変化を語った。



懸命なプレーで頂点に立った

男子S 阿部 意地の銅

男子シングルスでは阿部悠人(文4・希望が丘高)が準決勝で破れるも、エースの意地を見せ、銅メダルを獲得した。「全国大会でメダルを取ったことがなく、今回はその壁を乗り越えることができた」と安堵の表情を浮かべた。

男子D 福澤・星ペア うれしい準優勝

男子ダブルスでは、福澤勇太(人間科学3・杜若高)・星優真(文2・東山高)ペアが準優勝を果たした。

前日のシングルスでは初戦敗退に終わった福澤は「気持ちを切り替え、ダブルスで結果を出せるように頑張ろうと思っていた。優勝はできなかったが、いい結果を残すことができた」と納得の表情を浮かべた。一方、1種目のみの出場だった星は



抜群のコンビネーションを見せた星(左)と福澤

「ダブルスに懸けていたが、決勝まで行くとは思ってなかった。優勝できなかったが、いい結果を残すことができた」と納得の表情を浮かべた。一方、1種目のみの出場だった星は(河上＝写真も)

専大スポーツ

【専大スポーツ】 <https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 445

専大スポーツ 編集部 公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

Twitter @sensuponow

Instagram sensuponow

専Sation NO.28

学内配布中

専Sation NO.28

学内配布中